

長期ビジョン（案）に関する
県民パブリックコメント意見募集の結果と県の考え方

【将来構想】

No.	意見	意見に対する県の考え方
1	<p>新型コロナの脅威によって大きく影響を受けているタイミングでは、将来認識を変えなければならなくなった部分がたくさんあり、組み直しが要る状況ではないか。</p>	<p>今回の感染症の発生を受け、グローバル化に伴う地球規模での蔓延や、都市部への人口集中と過密による感染拡大のリスクが明らかになったことから、検査・医療体制の充実、企業経営の多角化やテレワーク促進の支援、オンライン授業の活用等の施策を追加しています。</p> <p style="text-align: right;">（関連：実行プラン政策 11・16 など）</p>
2	<p>新型コロナウイルスで、リモート勤務やウェブ会議、ネット授業などが注目された。ICT がフルに活用できる環境整備にも力を注ぐべき。</p>	<p>2040年に向けた長期プロジェクトに「誰もが等しく超高速通信」を位置付け、高速通信網の導入・活用により、オンライン授業の充実、テレワーク・テレビ会議の導入促進などの施策を推進します。</p> <p style="text-align: right;">（関連：実行プラン政策 9）</p>
3	<p>県民に自尊心を喚起するため、「福井から日本を変える」といった志から始めるべきではないか。</p>	<p>幸福度日本一と評価される福井の良さを最大限に発揮し、人口減少などの課題を乗り越え、次の時代に新しい価値を創造することが本県の役割であり、世界が目指す「福井モデル」の確立を目標とすることを将来構想に記載しています。</p>
4	<p>新幹線や新施設もまちが活性する要因だが、県の活性化に大切なことは、人の魅力がすべてである。</p>	<p>目指す姿のひとつとして「誰もが主役のふくい」を掲げました。多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝けるふくいをつくっていきます。</p>
5	<p>福井県民が福井に自信と誇りを持ち、福井の良さをもっと知るべき。都会にないものがある喜びや福井だからこそできることをもっと県民にアピールし、県民全員がトップセールスマンになっていくことを望む。福井にしかできない福井をつくり、福井らしい未来になることを願う。</p>	<p>「自信と誇りのふくい」を目指す姿として掲げており、県民が「ふくい良さ」や「ふくいらしさ」を改めて認識し、次世代につないでいくことが重要であると考えています。地域の人々とふれあいながら郷土について学び発信する教育などを推進し、県民が歴史や文化等の福井の良さを発信していきます。</p>
6	<p>新型コロナの影響で、医療従事者や物流従事者など、社会を下支えしていた方々への感謝や注目が高まっている。起業家等が増えることも大事だが、「普通の」人たちも活躍できるような地域になってほしい。</p>	<p>職業はもちろん、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、多様性を認め合って、誰もが様々なことに挑戦できる「全員参加型」共生社会を築き、「誰もが主役のふくい」の実現を目指します。</p>

No.	意見	意見に対する県の考え方
7	県民に対する歴史、文化、芸術教育に力を入れることにより、地域社会の魅力あるまちづくりにも興味が湧くようになる。それらが集積し、県のアイデンティティになり、自分の県に自信と誇りを持つことができる。	長い歴史や生活が培った文化力、芸術文化への関心の高まりを活力に、楽しみにあふれるまちづくりを進めていきます。 にぎわいを創出するまちなかイベントを開催するほか、まちなかへのピアノ設置など、県民が楽しみ、交流を拡大する施策を推進します。
8	県民の発表、交流の場を日常生活の中に存分にちりばめる。	(関連：実行プラン政策 12)
9	第1部将来構想の将来イメージ2040年のふくい〔ともに楽しむ千年文化〕の中に、「県都デザイン戦略に基づく整備」という文言を入れるべき。	将来イメージでは、県内各地の「千年文化」を活かした交流拡大を進めることとしており、個別計画である「県都デザイン戦略」の名称等は記載していません。
10	行政の制度的な柔軟性や先進性、風土的な暮らしやすさ、相互扶助の温かみなどを総合的に「福井県の独自性」として打ち出し、「弱者や不遇な人たちがチャンスをつかみやすい場所」として国内外に認知されることを目指すべき。	ご意見を踏まえ将来構想への反映を検討するとともに、福井に残る家族・地域のつながりや、支え合いの精神を大切にしながら、すべての世代が安心して暮らし、生涯活躍できる全国モデルのしあわせ地域を目指します。
11	人の思いやりや再起にかける意気込みが暮らしや営みをより豊かで温かく彩りあふれる姿形に成り立たせ続けていく取組みの循環的な動きこそ、県が長期的に目指す理想像であり、そのための制度的な整備が不断に行われることを願う。	
12	働けない、病気をもった、誰かの助けを必要とする高齢者は「快適人生」の対象から外れているように思える。	将来イメージにおいて、要介護や認知症などの高齢者の方々にも優しい社会を目指すという内容の追加を検討します。
13	WAKASA リフレッシュエリア計画に期待している。関西圏からのアクセスの良さや、交流が多い地域性を活かしていく構想として、強く推進してほしい。	関西との近接性を活かし、まちづくりや産業のプレイヤーを呼び込むとともに、豊かな自然や歴史・文化、食を活かしたリフレッシュコンテンツの充実などの施策を、市町等と連携し推進していきます。 (関連：地域プラン)
14	P56の環日本海側諸国の「側」は不要ではないか。	ご指摘のとおり修正します。
15	脱原発、脱石油依存の社会経済の再構築に取り組むべきである。	将来構想の2040年に向けた長期プロジェクトの一つとして、2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指すことを記載しています。CO2フリーエネルギーの導入や、エネルギーを効率的に利用する仕組み(VPP)の構築等を推進します。 (関連：実行プラン政策 15)

【実行プラン】

No.	意見	意見に対する県の考え方
16	3つの将来像のうち「飛躍するふくい」の実現に向けた戦略を最重点化し実行とあるが、すべての人が輝き、幸せを実感できるよう「誰もが主役のふくい」も進めてほしい。	「誰もが主役のふくい」は、多様性を認め合い、人生100年時代に誰もが様々なことに挑戦できる「全員参加型」の共生社会を築いていくことを目指すものです。若者やシニアのチャレンジ応援や、男女共同社会の実現などの施策もあわせて着実に進めていきます。
17	「とんがろう、ふくい」というコンセプトは良いが、福井の県民性ではとんがったものに抵抗を感じやすい雰囲気があるため、とんがったものが大好きな県民になっていくよう促す事業があるとよい。	「とんがろう、ふくい」には、一人ひとりが個性を發揮し、変化や失敗を恐れず、お互いのチャレンジを応援し合う福井を目指そうという思いを込めました。 今後5年間で実行する「新時代スタートアッププロジェクト」の実行により、従来の枠にとらわれない発想力やチャレンジを応援します。
18	多彩な人材を育てるため、個性を見極め、個性を伸ばす教育に力を注ぐべき。	主体的・協働的な学びや、適性や興味関心に応じたスポーツ・文化芸術活動を通じ、個性を發揮し、福井の未来を担う子どもを育成します。 (政策1)
19	学校の校舎は児童生徒の夢を膨らませるようなものにする。	魅力を高めて選ばれる県立学校にするために、新たな県立学校の校舎のあり方を検討する際、ご意見を参考にさせていただきます。 (政策1)
20	健康な人も、心や体や生い立ちに引け目を感じている人も分け隔てなく職の機会を得やすく、伝統産業や電力事業、農林漁業や公共機関、大規模工場など様々な舞台で個人としてその働きを認められやすい社会を具現化する取組みが、国内外からさらに人を呼び込むのではないか。	共生社会に対する県民の意識を醸成するとともに、障がい者の就労支援を促進するなど、障がいの有無や国籍等に関わらず多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」を推進していきます。 (政策3)
21	県民に誇りを持たせるため、国内の他地域で災害が起きた際、率先して避難民を受け入れたり、より高い水準で行政やボランティアの支援体制を強化すると、「他県に対して役に立てる」という意識が醸成でき、誇ることができるのではないか。	平常時における訓練の実施や研修会の開催、災害における活動拠点の設置・運営やボランティアバスの運行など、災害ボランティア活動を推進します。 率先した避難者受入れについては、ご意見として承りました。 (政策3)
22	認知症サポーターをはじめ、地域のボランティアを増やす。研修など、県民全体の意識・理解の場をもっと設け、地域力を高める。	認知症サポーターの養成を強化し、見守りや外出支援など、ニーズに合った支援を行う体制を整備します。 (政策3)

No.	意見	意見に対する県の考え方
23	<p>認知症の家族を介護しているが、施設、病院、ケアマネージャー等、専門的な知識と経験をもって、こちらが苦しい時に相談したり助言を受けるところがもっとあるとよい。</p>	<p>認知症の人や家族、専門家等で構成する会議を設け、必要な取組みについて検討を進めていきます。</p> <p>認知症の方など、高齢者が状態に応じて適切な支援を受けながら、住み慣れた地域で暮らせる体制を整備します。</p> <p>(政策 3・4)</p>
24	<p>東京と福井を拠点にする会社が増えると、関係人口が増え、県内への移住者も増えていくことになるのではないかと。長期的な地域の発展としては、インバウンド以上に力を入れていくべき。</p> <p>また、他県の人材との関係性を築いて事業を立ち上げていくような企業を応援することが必要。</p>	<p>県外企業が県内に設置するサテライトオフィスを誘致するなど、多様な企業の誘致を推進していきます。</p> <p>また、後継人材の全国公募、都市部からのIT人材の確保などにより、さらなる成長を目指す企業や創業者を増やします。</p> <p>(政策 6・7)</p>
25	<p>都会への人材流出を防ぐため、県内企業に県外から優秀な経営者を招請し、県内企業の経営のレベルアップを図るべき。</p>	<p>インキュベーション施設整備の支援等により、県内外の多彩な人材が出会う交流拠点を創出し、さらなる成長を目指す企業や創業者を応援します。</p> <p>また、事業承継のための後継者の全国公募や高度人材のUIターン就職を促進し、県内に産業人材を呼び込みます。</p> <p>(政策 6・11)</p>
26	<p>武生のまちなかを一つのテーマパークと捉え、「武生のまちなかを歩かせること」をビジョンの一つに加えてほしい。</p>	<p>伝統的工芸品産地が集積する丹南地域の特徴を活かし、体験・見学機能を備えた工房併設型ショップの開設支援等、産地を巡りながら、産地の魅力を体感できるクラフトツーリズムを推進するなど、「まち歩きを楽しめる」観光地づくりを越前市とも協議しながら進めていきます。</p> <p>(政策 6・10) (関連：地域プラン)</p>
27	<p>まちなかで一休みできるスポット（町屋）や見学できるスポット（町屋）、越前和紙や越前打刃物等をはじめとするお土産を販売する店がまちなかにもっともっと必要。</p>	<p>太陽光発電等を備えたスマートハウスが集まる住宅団地の開発を進めていきます。</p> <p>マイ・ファームについて、本案では記載していませんが、ご意見として承りました。</p> <p>(政策 7 など)</p>
28	<p>スローライフを推進し、マイ・ファーム付き戸建て住宅を推進するとともに、一家に必要なエネルギーを自給できるようにする。</p>	<p>太陽光発電等を備えたスマートハウスが集まる住宅団地の開発を進めていきます。</p> <p>マイ・ファームについて、本案では記載していませんが、ご意見として承りました。</p> <p>(政策 7 など)</p>
29	<p>WAKASA リフレッシュエリア計画にあるような地域にすることにより、将来は子どもたちが地元で親と一緒に暮らしながら、都会で暮らすのと同じように知識や技術を活かした仕事ができるような地域をつくることを期待する。</p>	<p>北陸新幹線の全線開通により、関西が通勤圏になるほか、企業の本社機能の誘致やサテライトオフィスの誘致、テレワークの実践などの施策を推進することにより、本県で生活しながら新しい働き方が実現するよう努めていきます。</p> <p>(政策 7・11)</p>

No.	意見	意見に対する県の考え方
30	長期ビジョンの推進に、今後「百間堀横丁」構想も含めて検討いただきたい。	今後、福井駅周辺のにぎわい創出に向け、福井市や経済界と検討を進める際に、ご意見を参考にさせていただきます。
31	平成 25 年 3 月に策定された県都デザイン戦略によれば、櫓と養浩館庭園の整備が中期目標に挙げられていた。福井城 6 8 万石の歴史ある石垣と御堀を活かし、3 階建の櫓は県都の顔として、歴史と誇りと感動を与えることができる。	(政策 9)
32	第 3 部地域プランの福井坂井地区の将来イメージに、「福井城址」というキーワードを記載することが必要。	福井駅周辺のまちづくりの中に、福井城址公園のあり方の検討という項目を記載しています。 (政策 9)
33	団体で検討している公共交通活性化のアイデア集を送付するので参考にしてほしい。	いただいた資料は、今後の参考にさせていただきます。 (政策 9)
34	運転免許を返納した高齢者にとっても社会参加しやすい公共交通機関の整備を推進する。	地域住民が行う独自のバス運行などを支援し、住民の移動手段を確保するとともに、乗り合いタクシー事業等と連携した通院・買い物支援など、高齢者の生活に必要な新たな仕組みづくりを進めます。 (政策 9・15)
35	車ではなく、自転車での移動や歩く生活を推進するための自転車専用道路や歩道などを整備する。	シェアサイクルなど、自転車利用の環境整備を進めるとともに、車中心から歩行者を中心とした道路空間への再整備など、快適な暮らしを支えるインフラ整備を推進します。 (政策 9・15)
36	エンターテインメントや文化で活性化していくのは大賛成。福井県外で活躍しているアーティストの PV 作成や LIVE などを積極的にサポートしていくことは大切。	野外フェスティバルの開催など、「若者・よそ者」が集まり、交流するまちづくりを進めていくほか、観光情報のデジタル化推進に向け、多様な主体による情報発信を強化します。 (政策 10・12)
37	全国各地で多くの人がオンラインの発信者となる中、大切なのは、福井に来る目的を「わかりやすく」、「楽しく」伝える発信方法を見つけることと考える。	魅力ある観光地づくりや体験メニューの充実等の観光を楽しむ仕掛けづくりを推進するとともに、福井に来る目的をわかりやすく伝えるため、観光情報のデジタル化や、多様な主体によるユーチューブやインスタグラムなどでの情報発信・拡散を強化します。 (政策 10)
38	福井県の観光のターゲットは、お金や時間に余裕があり、目の肥えたシニア層にすべき。	一流料理人等による質の高い食の提供や、高級ホテルやオーベルジュの誘致を進めるなど、シニア層や富裕層もターゲットとした誘客を進めます。 (政策 10・12)

No.	意見	意見に対する県の考え方
39	歴史に残る芸術性の高い公共建築物や公共空間を整備する。また、景観行政を推進し、統一感のある街並み整備や、芸術性の高いものはライトアップする。	地域の景観づくりや、伝統的民家の保全・活用など、地域の団体が行う活動を市町とともに支援します。 また、イルミネーションエリアを創出するなど、観光資源の魅力を高め、交流拡大につなげます。 (政策 10・15)
40	観光においては、当県自慢である“幸福”のおすそ分けというスタンスがカギになり、県民一人ひとりが“自分事”化すること（「全員参加型」）が大事である。	すべての人が満足できる環境づくりを進めるため、県民がみんな参加し観光客をもてなしていく旨の記載を検討します。 (政策 10)
41	コロナ禍を機に、都会から地方への UI ターンが進むと言われている。本県の魅力をアピールするとともに、ICT 環境の整備を推進し、都会からいろいろな業種を呼び込むことにより、若者へ就職先を供給できる。	県外企業の本社機能やサテライトオフィスの誘致など、多様な企業の誘致を推進するほか、都市圏からの UI ターン就職の促進、ワーケーションの実践、微住の促進などを推進していきます。 (政策 11)
42	アフターコロナ、ウィズコロナの観点からの検討が必要。都市部の地域移住や微住、ワーケーションなどの推進をタイミングよく行っていくことが重要。	ご指摘のとおり、今回の感染症をきっかけに都市部から地方への移住についての関心が高まっていることから、この機をとらえ、都市圏からの UI ターンの促進、ワーケーションの実践、微住の推進等を積極的に進めていきます。 (政策 11)
43	医療・介護従事者の人材確保、質的向上のために、他県より賃金等の待遇をよくする。	インターンシップの実施や研修会の開催により、看護師などの医療人材の確保を進めるとともに、介護職についても、賃金をはじめとする処遇の改善を進め、医療・介護従事者に選ばれる環境づくりを進めます。 (政策 14)
44	各人が必要な時のみ使えるようなシェアエコノミーを可能な限り推進する。	ライドシェア等、ICT 等の技術を用いたシェアサービスの活用を推進するなど、新たな共助の仕組みづくりを進めます。 (施策 15)
45	生活ごみ、プラスチックごみなど、排出物の少ない生活スタイルを推進する。	環境への負荷を低減し、限りある資源の有効活用を進めるため、プラスチックごみの削減やおいしいふくい食べきり運動の推進等により、ごみの減量化を推進します。 (政策 15)
46	「有償ボランティア」の制度化という新たな発想があり、課題解決に向けてうまく機能させ、「福井モデル」の一例になるよう期待する。	人口減少や高齢化が進む中、農作業や除雪、移動支援など有償ボランティアによる生活支援を行う新たな仕組みづくりを進め、地域社会の活力を維持します。 (政策 15)

No.	意見	意見に対する県の考え方
47	自然災害に強い社会経済システムやインフラの強靱化を図ることに精力を注ぐべき。	頻発・激甚化する自然災害に対応するため、河川・ダム の整備や治水対策、橋梁やトンネル等の計画的補修など、 県土強靱化を推進します。 (政策 16)
48	普段から災害別に防災、減災の意識の向上を図るよう、研修・講習会など学習の場を増やし、災害弱者の視点から避難所、避難経路の整備・周知を徹底する。	県と市町の連携・協力強化に加え、地域防災マップやタイムラインの作成、地域の防災活動や訓練実施を支援するなど、地域の防災力を多面的に強化するとともに、避難誘導等を行う大規模災害団員の確保を進め、地域で一体 となって防災力を強化します。 (政策 16)
49	避難所先にありきで「後は自力で来い」といった指示を出さず、自己責任を押し付けられない。迅速に安全に一人一人が避難できるよう、きめ細やかな防災プランを行政が責任をもって打ち出すことが重要。	
50	感染症の拡大など、危機への準備に経験を蓄積することは、小規模県でも誇りを高めながら、交流人口を増やすことに繋がるのではないかと。	ご指摘の通り、過去の自然災害や今回の感染症に対し、 県民が力を合わせ危機を乗り越えた経験を活かしていく ことが重要と考えます。県・市町の連携・協力の強化のほか、 地域の自助・共助による防災力を強化することなどにより、 自然災害や感染症への対応力をさらに向上させていきます。 (政策 16)
51	これからは「地域間競争」ではなく、「地域間協力・共存」が大事ではないかと。	ご指摘のように、例えば観光については、県境を越えた 連携が重要であり、情報発信やモデルルート作成等、近隣 府県等と連携して広域観光を進めます。また、広域での防 災訓練や災害時の応援、感染症対策など、災害等の発生に 備えた広域連携も強化します。 (政策 18)

【地域プラン】

No.	意見	意見に対する県の考え方
52	地域プラン P225 の福井駅周辺について、より具体的に述べてほしい。年ごとに目標を立てて実行できるような施策を考えてほしい。	第3部地域プランでは各地域の方向性を示し、より具 体的な施策は第2部実行プランに記載しています。今後、 駅周辺のにぎわい創出や福井城址のあり方について、福 井市や経済界等との協議を進めていきます。
53	原発事故が起きた際、どうすればいいのか物事をはっきり提示し、危険を想定し、住民に伝えていくことが大事。そこに原発がないかのような地域プランは、どこか嘘くさく、そこに住もう、行こうとは思わないのではないかと。	第2部実行プランでは、原子力の様々な課題に対して、 県民の安全を最優先し対応する旨を記載しています。 第3部地域プランでは、廃炉関連産業の育成など、人や 企業、技術等が集まるEコーストエリアの形成に向けた 施策を記載しています。

【その他】

No.	意見	意見に対する県の考え方
54	<p>福井と信州の雪質の違いなど些細な“小ネタ”も“異日常”の観光 PR の一助になると考える。</p>	<p>自然や食が豊か、家族の絆が強い、子育てや教育の環境が充実しているといった、普段の生活の中にあり、その価値に気づいていないことに小ネタがあると考えます。</p> <p>今年1月に開催した福井の未来を一緒に考えるセミナー（第8回）において「小ネタを見つけ、地域の誇りにしてほしい」と講師が参加者に呼びかけており、今後、長期ビジョンの PR 等の際には、このような内容も伝えていきます。</p>